

「第1回・金融機関の若手職員向け勉強会」の成果と概要

第一部 基調講演：高向 巖氏（北海道商工会議所連合会名誉会頭）

基調講演では、高向氏より、「北海道の金融マンに期待するもの」と題して、出席した道内の信用金庫・信用組合（信金・信組）の若手職員に向け、1時間余りにわたって、先輩金融マンとしての熱い想いが語られた。

高向氏は、北海道の天然資源、食、観光、文化などが持つ価値が、北海道においてより適切に認識され、道内で付加価値をつける余地が残っていると指摘。

北海道の持つ潜在的な価値を有効活用するには、地元にも最も密着して活動している信金・信組の若手職員が、知恵を出し、どうすれば地域の活性化に役立てることができるか、というストーリーを描きつつ取り組むことが必要であると強調。

そうしたビジョンと志を持って業務に取り組むことが、信金・信組のお客様のためになり、ひいては、自分たちの生き甲斐や幸福につながると述べられ、最後は、“Boys and girls, be ambitious!” とエールを送って締めくくられた。



基調講演で受講生に語りかける高向氏

第二部 グループディスカッション

第二部は、受講生が5-6名の班に分かれ、財務局若手職員も加わって「信金・信組の強みを活かし、地域の課題にどう取り組んでいくか」というテーマについて意見交換を行った。

受講生たちは、信金・信組には、顧客に寄り添って営業している結果として各地元の良質な情報が蓄積されており、また、金融以外の面でも頼りにされる存在であることが銀行にない強みであることを確認。その一方で、近年の業務量増加や、経営効率化に伴う集金業務の取り止め等が、情報を入手する機会を減らし、顧客との距離感を生む結果になっているとの指摘もあった。

受講生たちは、信金・信組の強みを活かすためには、個々の職員が顧客に専門家としての情報提供や提案ができるスキルアップを図るとともに、信金・信組が店舗間や他の業態とのつながりを強化することで地域のハブ機能を強化していくことが必要、という認識を共有して討議を終えた。



グループディスカッションの様相